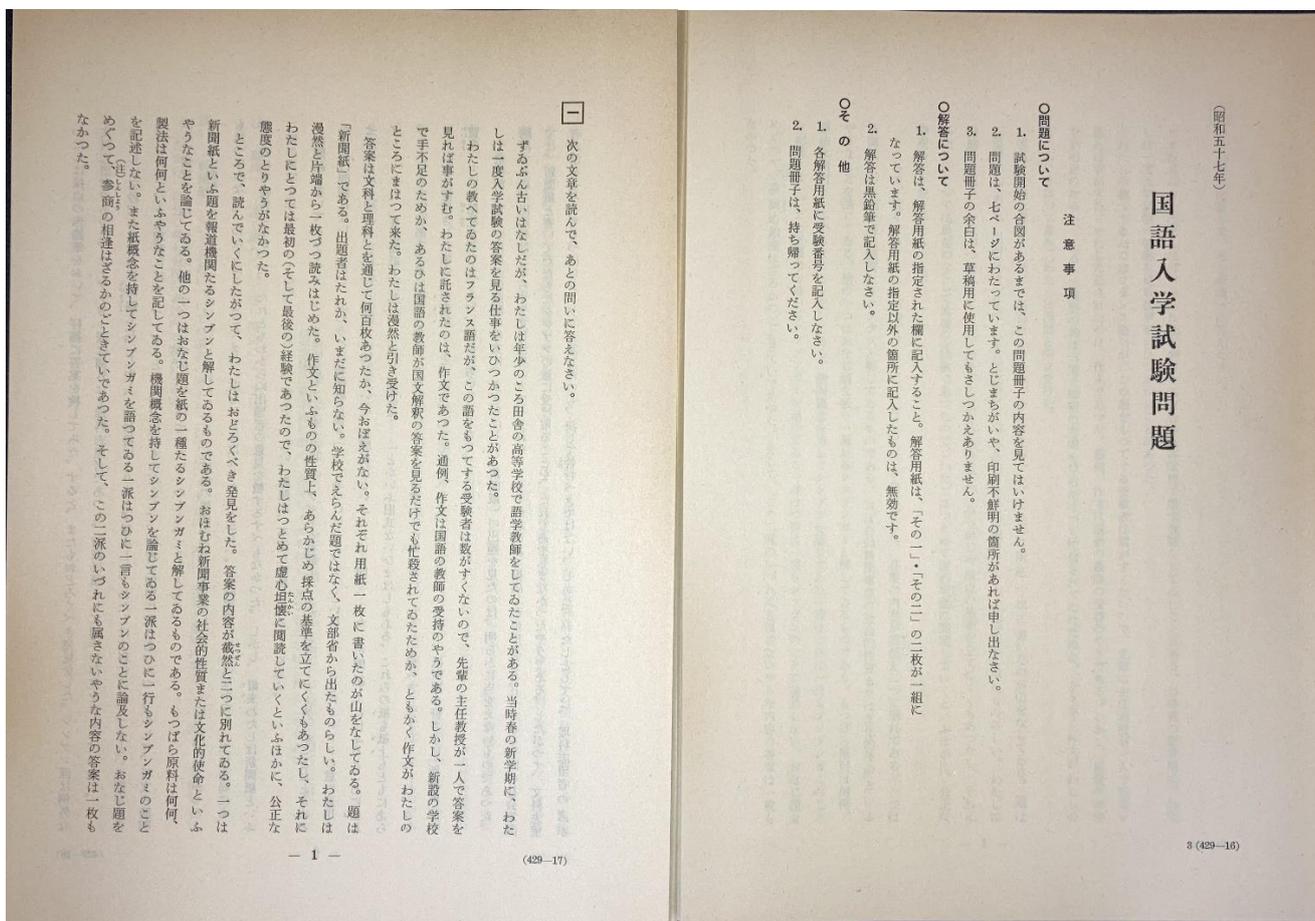


東京外国語大学文書館報

—Tokyo University of Foreign Studies Archives Newsletter—

Contents

入試問題の収集に関して	……………1 頁	東京外国語大学文書館日誌抄録	……………3 頁
研究者アーカイブズの創設について	……………2 頁	企画展の案内ほか	……………3 頁



[写真]1982 年度大学入試問題

1979 年度に共通一次学力検査が導入されると、本学では二次試験の科目が外国語と社会(世界史)の 2 教科に限定されます。しかし、この直後から入試に「国語」の復活または小論文の採用を求める声が上がりました。そのため80 年には「国語問題検討委員会」が学内に設置され、入試科目への国語の導入可否が検討されます。検討の結果、1982 年度の入試から国語が実施されることになりました。本資料は国語が復活した 1982 年度の入試問題です。

(資料番号:2019-入追-1982-2 国語入学試験問題)

入試問題の収集に関して

倉方慶明(東京外国語大学文書館 研究員)

大学文書館では、150周年史編纂事業の一環として、昨年度に引き続き、学内の関係資料群の悉皆調査とその収集を進めています。この度、入試課より地下倉庫に眠る古い入試問題が移管され、その整理が完了しました。本稿では本学における入試制度を概観するとともに、移管された資料群の特徴を紹介します。

1. 東京外国語大学における入試制度の変遷

大学入試制度は、各時代において求められる教育の在り方にあわせて、制度改革が進められてきました。

(1) 進学適性検査とⅠ・Ⅱ期制

新制大学が発足した1949年当時、国立学校の入試では、文部省の管轄のもと全国一斉に実施される進学適性検査と各学校における個別学力検査の2段階の試験が課されました。本学の個別学力検査では、外国語・国語(漢文を含まない)・社会・理科の4科目が課され、外国語については英語だけでなく、フランス語・ドイツ語・ロシア語・中国語が選択可能でした。

また国立学校は1期校・2期校に分けられ、1期校の学力検査は3月上旬に設定され、その合格発表後に2期校の学力検査が実施されるⅠ・Ⅱ期制が採用され、受験者には国立学校を複数受験する機会が与えられていました。2期校に位置づけられた本学には、旧帝国大学等1期校の受験に失敗した学生が、いわば「滑り止め」として入学することもあり、志望動機の欠如から留年や退学者増加の一因になる等の弊害もありました。

進学適性検査は、受験者の負担増等を理由に1954年度に廃止され、その後本学では第1段階選抜として外国語の学力検査を課し、合格者に外国語・国語・社会・数学を課す2段階の学力検査が導入されます。Ⅰ・Ⅱ期制についても合格発表後の辞退者の多さや1期校・2期校の大学間格差等を理由に批判が高まり、1978年度に廃止されます。

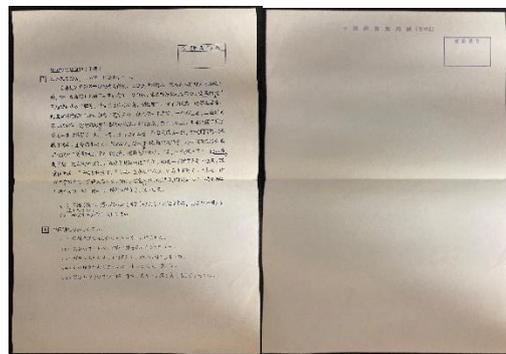
(2) 共通一次学力検査から大学入試センター試験へ

1979年度より共通一次学力検査が導入されると、受験生には5教科7科目の学力検査が第1段階選抜として課されます。こうした第1段階選抜での科目数の増加を機に、本学の第2段階選抜は同年以降、外国語と社会(世界史)の2科目に限定されます。その後1982年度より国語が復活して3科目になりますが、1979年度以降第2段階選抜から数学は姿を消していきます。

1990年度に共通一次学力検査が大学入試センター試験に移行すると、教科数や利用の方法を各大学の裁量に任せ、いわゆる「アラカルト方式」が導入されます。これを受け、本学ではセンター試験を通じて外国語・国語・社会又は数学の3科目を課し、本学学力検査において英語・小論文を実施する入試体制へと移行していきます。

制度上1989年度以降国立学校の受験機会に前期・後期日程の区分が設けられました。本学では1993年度入試より前期・後期の2度にわたる入試が導入され、前期日程では外国語、後期日程では外国語と小論文が課されました。

その後、本学のセンター試験の科目に2000年度から理科が復活(2006年度以降前期のみ)し、前期日程では2006年度から社会(世界史)が、2015年度からは社会(世界史又は日本史)が追加されます。後期日程では2000年度に小論文のみへと科目が限定され、2006年度からは外国語による論述形式に変更される等、目まぐるしい変動期を迎えています。



【写真1_1968年度の外国語(中国語)問題・解答用紙】

2. 移管された資料群について

この度、入試課より移管されたのは1968年度から2004年度までの入試問題です。残念ながら学園紛争のあった1969年度分や、1987年度～1991年度分等、一部欠落もありますが、本学における入試制度を検証するうえで貴重な資料群となります。

とりわけ、本学の個別試験では最後の数学の試験となる1978年の入試問題や、共通一次学力試験導入後の個別試験で国語が復活した1982年度の問題など、本学の入試制度を顧みるうえで「節目」の年の入試問題も含まれています。また本学は外国語大学であることから、個別学力検査においても英語以外のフランス語・ドイツ語・ロシア語・中国語等の選択も可能でした。そうした1960年代以降の外国語の受験問題についても確認できます。

入試制度の変遷には、学習指導要領の改訂に伴う「生きる力」の育成等、時代が求める教育の在り方の変化が影響を与えているだけでなく、大学のカリキュラム改革等、大学側が求める学生像の変化も関係しています。本年度の企画展では、当時、受験生であった方々には「懐かしさ」を感じることができる入試問題を中心に、入試制度の変遷を紹介する予定です。

研究者アーカイブズの創設について

倉方慶明(東京外国語大学文書館 研究員)

大学文書館では、これまで「浅田栄次」・「千葉勉」・「ゴンサロ・ヒメネス・デ・ラ・エスパーダ」・「八杉貞利」等、前身校である東京外国語学校を中心に本学に在籍した研究者(教員)に関する資料の収集・整理・保存、企画展等の開催を進めてきました。

これらの資料群の収集は、遺族をはじめとする関係者からの寄贈の申し出を契機としており、いわば「偶然の出会い」に頼ってきました。また受入に際して、大学文書館としての明確な受入基準を設けて来ませんでした。

そこで2021年11月、本学の教育・研究・大学行政の歴史のなかでの研究者の位置づけ等を明確にし、本学に在籍した研究者に関する資料群の体系的な収集・整理・保存と、その公開体制の構築を目指すために、研究者アーカイブズを創設することになりました。

1. 研究者アーカイブズの事業

具体的には以下の2つの事業を進めていきます。

(1) 既存の収集資料群の公開体制の整備

大学文書館が収集・整理を行った既存の研究者資料群については、ウェブ上に企画展の内容等を紹介する個別の特設ページを設けて来ました。研究者ごとに作成された「乱立」しているこれらの特設ページを「研究者アーカイブズ」として一元化し、そこに在籍した研究者の一覧や過去の研究業績等を追加することで、本学の教育・研究の系譜のなかでの位置づけも含め、紹介できればと考えています。

(2) 今後の受入・公開体制の整備

研究者の資料群は、各々の研究分野において研究史上の「価値」を有する、と考えられます。他方で文書館として、当該資料群を受入れる以上、大学との関係性、つまり大学の教育・研究や大学行政の歴史のなかで、どのように位置づけられるか、という「価値」判断は不可避です。とくに収蔵スペース上、寄贈・寄託の申し出があった資料群のすべての受入れることは困難であり、明確な受入基準を設けることで、収蔵スペースを活かした体系的な収集が可能となります。

また文系研究者の資料群には、本人の研究業績をはじめとする著作物が多数含まれるほか、共同研究にかかわる資料や学会・研究会に参加して取得した他者の研究発表資料等、本人以外の研究業績が含まれている場合も少なくありません。ときに、そのなかには内輪の研究会で報告された世間には未発表の内容も含まれ、研究者の資料群だからこそ公開に当たって留意すべき事項がある、と考えられます。

そこで、研究者の資料群に関するこれまで収集実績や今後の調査活動を通じて、研究者の資料群に共通する受入基準や公開基準、整理方法のマニュアル化を進めていくことを予定しています。

2. 蒲生慶一氏資料群の整理

大学文書館では2021年度の整理事業の一つとして、故蒲生慶一教授(2021年3月26日逝去)の教育・研究に係る資料群(蒲生慶一氏資料群)の整理を実施しました。

大学文書館に寄贈される研究資料の多くは、本人が亡くなってから、遺族や関係者等多くの人の手と時を経て、受入れに至ります。そのため、寄贈に至るのは研究時のノートやメモ、日誌等ごく一部となることが多く、元々研究者の手元にあった資料群の全体像は分からないケースがほとんどです。

蒲生慶一氏資料群については、ご遺族のご厚意によりお亡くなり直後に調査に着手させていただいたこともあり、研究室・自宅に保管された教育・研究に係る資料群がほとんど手つかずの状態のまま調査を開始することができました。6月より研究室の現状記録に着手し、8月より自宅の現状記録と資料群の大学への運搬を進め、その後目録の作成を進めました。

他方で、蒲生資料群については、その整理段階から、資料群の原秩序に関する記録を詳細に残す一方で、保存スペースの関係上、資料群全てを保存対象(保存対象)としないことを基本方針としていました。そのため、整理作業と並行して、保存対象の選別基準の検討を進め、「蒲生資料群評価選別基準」を策定し、基準に基づき、保存対象を選定しました。

この蒲生慶一氏資料群の整理過程で実施した整理手法や選別基準が、他の研究者の資料群に適用可能であるのか、どういった改訂が必要であるのかについては、今後の検討課題ですが、一つ一つ実践研究を進め、研究者アーカイブズの一事業として検討を重ねていく予定です。



【左】蒲生慶一氏博士課程単位取得論文

【右】蒲生氏の研究論文の読書記録

東京外国語大学文書館日誌抄録 (2021年4月1日～2022年3月31日)

4.1(木)	出張(警視庁情報公開センター)(倉方研究員)	8.20(金)	蒲生資料群自宅分箱詰め作業(第1回)
4.12(月)	出張(国立公文書館、資料収集)(倉方研究員)	8.31(火)	蒲生資料群自宅分箱詰め作業(第2回)・運搬
4.16(金)	出張(国立国会図書館、資料収集)(倉方研究員)	9.4(土)	蒲生資料群自宅分運搬・目録作成開始(2022年3月迄)
4.22(木)	故蒲生慶一氏資料群整理着手決定 企画展「学内競漕大会の歴史」(7/21)	9.10(金)	出張(国立国会図書館、資料収集)(倉方研究員)
5.6(木)	「法人文書ファイル管理簿」等の調製及び 法人文書ファイルの回収に関する打合せ(総務企画課総務係・文書館)	9.13(月)	蒲生資料群整理打合せ(経費・方針決定)
5.7(金)	蒲生資料群概要調査	9.29(水)	法人文書ファイル溶解処分
5.10(月)	「令和2年度法人文書の管理の状況調査に基づく「法人文書ファイル管理簿」等の提出について(依頼)」及び「法人文書ファイルの回収のお願い」通知(総務企画課)	10.6(水)	授業「近代日本のなかの東京外国語大学」(Zoom形式、全13回、1/12迄)
5.11(火)	蒲生資料群概要調査	10.28(木)	中嶋嶺雄資料群整理打合せ(遺族)
6.3(木)	蒲生資料群整理方針決定	11.18(木)	企画展「東京外国語大学における言語教育の歴史」(5/12迄)
6.7(月)	法人文書ファイルの回収(7/1迄)	12.6(月)	中嶋資料群概要調査
6.8(火)	蒲生資料群整理打合せ	12.16(木)	出張(大阪大学アーカイブズ、資料収集)(倉方研究員)(12/17迄)
6.10(木)	公文書館長会議出席(倉方研究員)	1.12(水)	文書管理研修(教授会)
6.17(木)	文書館打合せ(移管廃棄検討案の件)	1.26(水)	出張(北九州市立文書館、資料収集)(倉方研究員)(1/27迄)
6.24(木)	文書館打合せ(移管廃棄検討案の件)	2.1(火)	出張(徳島県立文書館・鳴門市ドイツ館・愛媛県立中央図書館、資料収集)(倉方研究員)(2/3迄)
6.26(土)	蒲生資料群自宅訪問調査	2.26(土)	中嶋資料群概要調査・箱詰め作業(第1回)
6.29(火)	蒲生資料群概要調査(7/20迄)	3.6(日)	中嶋資料群概要調査・箱詰め作業(第2回)
7.8(木)	文書館打合せ(移管廃棄検討案の確定)、各課・室との評価選別結果の協議(7/15迄)	3.16(水)	出張(神戸市文書館・神戸大学文書資料室、資料収集)(倉方研究員)(3/17)
7.21(水)	企画展「1964年東京オリンピックと外語の学生たち」(11/18迄)	3.23(水)	蒲生資料群報告書(初案)の完成・送付
8.2(月)	法人文書ファイル移管分の保存処置(低酸素処理)開始	3.31(木)	特定歴史公文書等目録(2021年度)の公開

150周年史編纂事業に伴う資料寄贈のお願い

大学文書館では年史編纂に向け、関係資料群の収集と聞き取り調査を進めています。卒業生・退官教員の方々のお手元に下記の資料がございましたら、ご寄贈と聞き取り調査へのご協力をお願い申し上げます。

- (1)昭和20年以前の東京外国語学校・東京外事専門学校関係資料
- (2)部・サークル活動関係資料
- (3)教科書・ノート・レジュメなど授業関係資料
- (4)学園紛争関係資料
- (5)西ヶ原キャンパス関係資料
- (6)写真・映像
- (7)その他

2022年度企画展開催予定

本年度の企画展の開催予定は次の通りです。

- ◆開催期間
 - 4月～7月 学内競漕大会の歴史
 - 7月～10月 東京外国語大学における入試制度の変遷
 - 10月～1月 二学部化10周年とその影響(仮)
 - 1月～3月 東京外国語大学文書館10周年記念(仮)
- ◆開催場所：附属図書館1階ギャラリー
※開催時間は附属図書館の開館時間に準拠します。

また大学文書館ウェブページでは現在ウェブページのリニューアルを進めており、過去に開催した企画展の内容を「ウェブ展」を通じて発信していきます。



【左】「国際法講義」
(1913年アルバム)



【左】企画展「東京外国語大学における言語教育の歴史」の様子(附属図書館1階ギャラリー)

東京外国語大学文書館報 第6号 2022年6月30日発行
編集・発行 東京外国語大学文書館
〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1 TEL 042-330-5842
E-mail tufsarchives@tufs.ac.jp
URL <http://www.tufs.ac.jp/common/archives/index.html>